



同好会ひろば

第298号
R5. 9. 1
No.3

小・中学校合同部会報告 7月27日(木)於 名古屋市中小企業振興会館

小・中学校合同部会では、1学期に行った実践の成果と課題について発表し、「主体的に学ぶために学習段階の設定」「学び続けるための学習問題と学習活動の設定」「主体的に学習に取り組む態度の評価」の中から、それぞれが協議したいテーマを選び、協議を行いました。小学校、中学校それぞれの各分野の部長や副部長、推進部員に加え、研究会役員や同好会員にも参加していただき、とても有意義な時間となりました。



【協議の様子】

実践についての検討では、「主体的に学習に取り組む態度の評価」について中心的に協議しました。具体的には、形成的評価と総括的評価をどのように見取るのかということや「よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度」の評価では、思考・判断・表現との評価をどのように区別していくのかということについて協議しました。

- 3・4年生グループでは、2学期の実践に向けては、単元計画や子どもの発達段階を基に、各段階の子どもの活動に沿って、子どもの姿・変容を具体的にイメージして3・4年生部会としての評価基準を設定していくという方向性を見いだしました。
- 5年生グループでは、1学期の実践においてゲストティーチャーとこれからの水産業の在り方を語り合うということによって、これからの水産業の在り方や私たちにできることを考えることができたという成果が得られました。この成果を基に、2学期の実践に向けては、どのようなゲストティーチャーに出会わせるとよいかを検討し、教材研究を進めていくという方向性を見いだしました。
- 6年生グループでは、2学期実践に向けて「よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度」を評価する場面において、子どもが問題や課題について具体的に実感を伴って捉えることができるように、ゲストティーチャーを活用していくという方向性を見いだしました。

- 地理的分野グループでは、個別最適な学びに関わる学習活動の工夫で、1枚ポートフォリオを活用して、学習計画と振り返りをさせることで、自己調整しながら学習を進めることができました。2学期実践に向けては、振り返りの際に本時の学習を基にした次時の学習計画の立てさせ方について協議が行われました。
- 歴史的分野グループでは、個別最適な学びに関わる学習活動の工夫で、ロイロノート・スクールの共有ノートを活用して各自が調べた内容を共有できるようにしたことで、主体的に追究する姿勢を持続させることができました。2学期実践に向けては、流れや因果関係がある中でも生徒が主体的に学習に取り組むことができる学習課題について協議が行われました。
- 公民的分野グループでは、主体的に学習に取り組む態度の評価の在り方について、ルーブリックを作成し、評価をしていくことで、生徒の学習の状況を見取りながら指導ができるとともに、生徒も課題の解決に向けて主体的に学習に取り組むことができました。2学期実践に向けてより汎用性の高いルーブリックの作成に向けて協議が行われました。

【第298号 紙面】

小・中学校合同部会報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(p1)

訪問インタビュー 早川 孝一 先生・・・・・・・・・・・・(p2・3)

フィールドワーク活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(p4・5)

授業力アップ研修グループの様子・今後の予定・・・・・・・・(p6)



訪問インタビュー

早川 孝一 先生

昭和58年、鳴海中学校に着任。以降、大江中、守山北中、沢上中を経て、港南中校長に。その後、教職員課長、富士中学校長を歴任されました。菊井中学校長（再任用）ののち、現在は、愛知享栄学園の学監としてご活躍されています。

名古屋市の社会科教育を発展させるため、社会科研究会委員長、校長会社会科部会長、昨年度の全中社研名古屋大会では顧問を務められました。また校長会長としてもご活躍された早川先生。先生の豊富なご経験を基に、今後の同好会活動を充実させる貴重なお話を伺いました。

現在の仕事について

学園内の享栄高校、栄徳高校の1年目から3年目の若手の先生の研修を担当しています。私立学校は、公立学校のように「教育センター」や「拠点校指導員」による研修体系が整備されているわけではありません。研修者の中には、大学を卒業したばかりの先生や、公立中学校で講師を経験してきた先生など、教員としての経験は様々です。「授業づくり」や「学級経営」について研修を進めながら授業力、実践力を高めていきます。

「授業づくり」の楽しさ

勤務先の高校では、研究授業週間が設定され、すべての教員が公開授業を行うことになっています。授業を参観すると、若手だけでなくベテランの先生も、授業展開や発問、プリント、タブレットの使い方など工夫している様子が伝わってきます。

こうした「授業づくり」こそ、まさに教員の本分だと言えます。日々、だれもが、子どもたちの反応を思い浮かべながら、授業の流れを考えています。社会科の教員であれば、「社会科の授業が楽しかった」「よく分かった」と子どもたちが笑顔を輝かせる授業づくりは切実な願いだと思います。同好会に「授業づくり講座」や「授業力アップ研修グループ」などの講座が作られました。若手の先生方はこうした講座で「授業づくり」のヒントをたくさん手に入れてほしいと思います。

今の教育現場について

とても大きな質問なので、内容を「授業づくり」に焦点を当てて話したいと思います。昨今の課題としては、「個別最適化」された学習活動をどう進めるかだと思います。単元の中で、個々の生徒が設定した学習課題を追究していくのですが、単元の目標があるわけですから、個々に追究したとしても目標を達成できるようにする手立てが必要です。個別に進んだ学習を、どの場面でのどのような方法で共有化するのか、言い換えれば「個に応じた学び」と「協働的な学び」をどう組み合わせるのか、教師の手腕が問われます。しかし、学習活動ばかりに着目していると、「何を、どう学ぶか」の「ど

う学ぶか」ばかりに着目した実践研究になってしまいます。公民的資質を育てる社会科として特に大切にしたいのは、「何を学ぶか」という教材化の工夫であることは言うまでもありません。

「授業づくり」と全中社研名古屋大会

私自身、5年研のころまでは、日々の学校業務や部活指導に精一杯で、中学校部会になかなか参加できませんでした。「授業づくり」と言っても、毎時間の授業の流れを考える教材研究にとどまっていた。5年研のとき、中学校部会に参加していた仲間の実践は、単元を通して学習課題を追究する流れや手立てが工夫されていて、とても感心しました。「もっと自分もがんばらなければ」と思ったものです。

単元を通した課題解決学習と、生徒の考えの変容をみることの大切さに気付かせてくれたのは、その年度（昭和62年度）に開催された1回目の全中社研名古屋大会でした。「人間の生き方を問い続ける」というテーマは、私たちの世代にしみこんでいます。では、何を、どう問い続けさせるのか。当時のサブテーマである「—4つの観点から迫る授業の創造—」は、生徒の考えを深めるための教材化の視点や手立てとして、今もなお中学校部会の「授業づくり」のベースになる考え方だと思っています。様々な社会事象について、「個人と社会」「資源と環境」「経済と外交」「文化と伝統」の4つの観点を通して見ると、「個の利益と公共の福祉」など価値葛藤場面を生み出す教材が浮かび上がります。生徒の考えは、「立場討論」を通して相手の考えも聞く中でゆれ動き、変容していきます。こうした人間の生き方を問い続けていく学習が、公民的資質の育成につながるという理論です。

最終的な生徒の判断はどちらでもいいのですが、その後の大会では、共通する大切な価値に気付いていくことを重視してきました。合意形成を図り、よりよい解決策を生み出すもとなる価値です。そして、昨年度の大会では、多様化する社会の中で、合意できない考えにも目を向け、現在や将来の社会をよりよくするために生かしていこうとする「つなぐ」場面を重視しました。分野会や理論研究部会などで、仲間とともに実践を練り上げて「授業づくり」に取り組んだことは、かけがえのない思い出です。

同好会活動への期待

私たちの世代は、1回目の全中社研大会で実践研究の大切さを学び、多くの先輩の先生方とつながることができたと思います。その後、次の大会に向けて、中学校部会で交わされる熱い議論の様子を思い出します。分野会で授業実践に取り組んだり、社会科関係の仕事に取り組んだりするなかで、後輩の先生方とも出会いました。こうした活動で出会った先生方が、教員生活の中でどれだけ大きな支えになったか言葉に尽くせません。感謝の気持ちでいっぱいです。



今年の同好会活動のテーマは「人とのつながりを大切にする」です。同好会活動で学ぶのは、社会科の授業実践だけではありません。人とのつながりを通して、名古屋の教育現場を担う力を高めたり、それを支えるネットワークを作ったりしているのです。「授業づくり」が楽しいとき、その授業はきっと子どもたちも楽しくなる。先生の取り組む姿は、必ず子どもたちに伝わります。「分かる、楽しい社会科の授業」をめざして、同好会の皆さんの様々な実践に期待しています。

フィールドワーク活動報告

令和5年度のフィールドワークは、「2学期の授業に役立つ教材」をテーマに各推進部会を中心に実施しました。

○3・4年生グループ「名古屋市消防局特別消防隊第一方面隊」

3・4年生グループは、8月22日に中川区にある特別消防隊第一方面隊にて、今年度から運用が始まった昼間時間帯に稼働する救急隊「Blue EIGHT」について学びました。

これまでの名古屋市の救急業務は、医療機関収容までの時間を短縮しようと資器材の軽量化や、救急指令予告の導入を進めてきましたが、それでも、各救急隊が1日あたり14～15件の出動要請に対応をしていたことで、緊急時に駆けつけることのできる救急隊の数が局地的に足りなくなることがあったそうです。そこで、救急隊がいない地域を無くすため、機動的に待機場所を変更することができる本部直轄の救急隊として Blue EIGHT が導入されました。この取組は、全国的にも珍しく、各自治体の消防隊員の方が見学や研修に来ることもあるそうです。

名古屋市独自の取組について知ることで、地域の人々の働きに注目でき、地域社会の一員として自分たちにできることを考えるきっかけにもなる教材だと実感することができました。



○5年生グループ「産業技術記念館」

5年生グループでは、8月9日に産業技術記念館に行ってきました。

前半は、館内を自由に見学させていただきました。館内は大きく分けて「繊維機械館」「自動車館」の2つから構成されています。「繊維機械館」は、大正時代に建設された紡績工場や建屋をそのまま使用されていて、近代日本の発展を支えた基幹産業の一つである繊維機械と技術の進歩が分かります。「自動車館」は、まるで大きな体育館に自動車工場が丸ごと入ったような館内で、現在に至るまでの自動車工業の発展が分かります。当時実際に使われていた機械も展示されています。

後半は、産業技術記念館の「ガイドツアー」に参加しました。スタッフの方により自動車館について詳しく説明していただきました。当時の古い機械が動態展示されていて、スタッフの方による稼働実演で、技術の進歩や自動車づくりを目の前で見て、体感することができました。



○6年生グループ「お茶の体験、お茶の歴史」

6年生グループでは、8月8日に茶道の先生からお茶の歴史についてお話を聞いたり、お茶の体験を行ったりしてきました。

まず、お茶の歴史についてお話を聞きました。「抹茶」は平安時代に中国から日本に伝わり、始めは薬として広まったが、体調不良を治すだけでなく抹茶を楽しむようになってきたそうです。時代が移り変わるにつれて、質素なものが好まれる時代や煌びやかなものが好まれる時代などがあったようです。

次に、先生に教えてもらいながら実際にお茶をたてる“お点前”をさせていただきました。先生の所作は無駄がなく、本当に美しかったです。また、立ち方、座り方やお湯を沸かす炉の置く場所が季節によって変化することなど、茶室にいる方々が茶の湯をより楽しめるように、所々でおもてなす心遣いが表れていました。先生の「茶道の動きは無駄がなく、自然なんです」という言葉のように、初めはぎこちなくても、動きを理解していくうちに、理にかなった動きができるようになりました。先生のお話や体験を通して、「室町文化」について触れたことで、文化を大切にしていかなければならないという気持ちが高まりました。



○中学校グループ「名古屋港湾事務所」

中学校グループでは、8月10日に国土交通省中部地方整備局名古屋港湾事務所の方に名古屋港やポートビルを案内していただき、港の機能や歴史などを学ぶことができました。

前半のポートビル展望室や海洋博物館の見学では、名古屋港全体に位置するそれぞれのふ頭の役割や輸出入に関する説明をしていただきました。名古屋港は、ふ頭ごとに役割があることを知りました。特に新宝ふ頭にはトヨタ自動車専用の積み出し基地があり、自動車輸出台数日本一を支える重要な場所だと知りました。また、港湾事務所の主な仕事は港の土台作りであり、岸壁の強化や海底の掘削作業を行っていることを知ることができました。

後半は船を出していただき、普段は見ることでできない海側から名古屋港を見学することができました。水族館などがあるガーデンふ頭から出発し、かつて使われていた灯台の跡や飛島ふ頭にある港内最大の自動化されたコンテナターミナルを見せていただき、最後は名港トリトンを下から眺めることができました。

中部地方の工業を支える重要な名古屋港について施設や海上から学ぶことができ、教材として生かせるフィールドワークになりました。



若手躍動～授業力アップ研修グループの様子～

6月から、1年目～6年目までの先生方を対象とした授業力アップ研修グループの活動がスタートしました。それぞれグループリーダーを中心に集まり、授業作りの工夫や学級経営についてなど、テーマを決めて話し合ったり、相談し合ったりしています。夏季休暇中には、多くのグループが会を開きました。

研修会の様子

集まった先生方で順番に悩み事を相談する形のグループやテーマを設けて検討会をするグループなど会の形は様々です。小学校のあるグループでは、「思考力・判断力・表現力を高める手立て」「3年生でも使えるおすすめの実践」「評価の取り方」などについて話し合いました。実際に授業で使えるネタについて、同世代の先生方と検討できる場となりました。今後も、それぞれのグループの実態に合わせながら、よりメンバーにとって有意義な会になるように工夫していきます。



【グループでの話し合いの様子（小学校）】 【グループでの話し合いの様子（中学校）】

～今後の予定～

- 9月 7日(木) 19:00～ 小学校部会(小碓小学校)
中学校部会(中小企業振興会館)
- 9月 14日(木) 19:00～ 授業づくり講座③(ZOOM 開催)
- 10月 26日(木) 19:00～ オンライン交流会②(ZOOM 開催)
- 11月 21日(火) 18:30～ 懇親会(ルブラ王山)
- 11月 29日(水) 19:00～ 小・中学校合同部会(中小企業振興会館)

※詳細は例会案内をご覧ください。

また、ホームページの「学びの広場(会員限定)」では、昨年度、ステップアップ研修を受講された会員の「体験記録」や授業づくり研修会で配布された資料などがご覧いただけます。

パスワードは「tokugawa15」です。ぜひご覧ください。



LINE登録はこちら↑